



九中だより

令和5年1月31日
府中市立府中第九中学校
校長 吉田 修
No.10

～ 志をもつ ～

校長 吉田 修

新しい年が始まって早くも一ヶ月が経とうとしています。一年というのは長いようで短いものです。一年 365 日、12 ヶ月、週でいえば約 52 週間です。52 週と聞いてあなたは長いと思いますか。短いと思いますか。「光陰矢のごとし」という言葉がありますが、時間の過ぎるのは速いもの、一年はあっという間です。

古典に「邯鄲の夢」というお話があります。中国の唐の時代に書かれた小説「枕中記」の故事の一つです。「邯鄲」とは戦国時代の趙の都市のこと。趙の国に盧生という若者がいました。盧生が出会った呂翁という道士に自らの身の不平を語ります。すると呂翁は夢が叶うという枕を盧生に授けます。盧生がその枕を使うと、名家の娘と出会い結婚し、科挙(官吏登用試験)に合格し、出世を重ね勲功をたてて栄進することができました。しかし、左遷されます。左遷され三年を過ごしますが、再び召されて宰相に上り、それから十年間、よく天子を補佐して善政を行います。しかし、今度は突然、無実の罪で逆賊として捕えられます。思い悩み自殺しようとするのですが妻におしとどめられます。ともに捕まった者たちは皆、死刑になりますが彼だけは流罪になり一命を取り留めます。やがて冤罪であったことが皇帝に知れ、再び呼び戻されて手厚く寓されます。その後幸福な人生を送り、多くの人に惜しまれつつ眠るように最期を迎えます。

そして、ふと目覚めます。しかし、目が覚めてみると宿の主人が炊いていた粟もまだ煮え切らないほどの僅かな時間だったということです。人の世や、人生の栄枯盛衰ははかないというたとえのお話です。

つまり「邯鄲の夢」とは人生は短くはかないものという意味です。うたた寝をするくらい短い時間に見た夢が「50 年余り」の一生分の人生を表すものだったということから、「人生は長いようで、実は束の間のわずかなものである」ということを記しています。そう考えると、先のことを考えて悩むより「たった今」を大切に一生懸命生きていこうと、前向きな気持ちになりますね。

雑多な日常の中でつい日々を追われてしまいがちですが、だからこそみんなには夢・目標、志というものをもって日々、過ごしてほしいと思います。夢・目標、志というと大きなものを考えがちですが、小さくとも自分が誇れるものであればいいと思います。どんな夢・目標、志であっても自分の中から自然と出てきたものであれば本物だと思います。

時間というのはたくさんあるようであっという間に過ぎるものです。今年も十二分の一が終わろうとしています。新年度のスタートももうすぐそこに迫っています。夢・目標、志をもって、もしくは探して、今を大切にがんばりましょう。

作品展



図書委員



木工作品



美術部



文芸部

～作品展を終えて～

美術科 輿水 浩美

1月27日(金)、28日(土)の二日間にわたって作品展が開催されました。

一年間の集大成ともいえる作品を互いに鑑賞することで、学年や教科を超えて生徒たちにとって良い刺激になったのではないのでしょうか。また、二日目の土曜授業の際には、多くの保護者の皆様にもご観覧いただきました。子供たちの学校生活での様子を、作品を通じて垣間見ていただけたと思います。ありがとうございました。

